

山中比叡平学区自主防災会 訪問記録

- 1 日 時：平成 23 年 4 月 2 日（土）13:00～15:30
- 2 場 所：比叡平自治会館（やまびこ）
- 3 出席者：（先方）久保田（事務局長）、辻（比叡平三丁目自主防災会副会長）、松本（？）、富永（日吉台）、笈田（比叡平一丁目自主防災会会長）
（来賓）釜井俊孝京都大学教授
（当方）石川、伊藤、江川、太田、片瀬、西浦、平井、廣野、藤井、山田
- 4 打合せ事項
 - (1) 双方の自己紹介
 - (2) 資料に基づき釜井教授より「仙台市における宅地谷埋め盛土の地すべり」の現地調査結果報告があった。
調査箇所と地すべり状況
太白区緑ヶ丘 3、4 丁目：対策工（300 鋼管杭列や集水井）施工済箇所でも顕著な地すべり発生
2 丁目：対策工施工済で小さい変形が発生
1 丁目：対策工施工済で全く変状が認められなかった。
八木山松波地区：住宅 7 棟とマンション 1 棟を巻き込む地すべり発生。
八木山南 4 丁目：小規模な崩壊
東北大学工学部総合研究棟の南側：建物 1 棟を巻き込む地すべり発生。
青葉区折立 5 丁目地区・西花苑 1 丁目：大規模な地すべり
 - (3) 現場視察
比叡平 1～3 丁目の盛土斜面を視察、安全性に関する見解（感想）について意見交換した。
（K）強い地震が発生すれば地滑りの恐れはある。
切り盛り境界付近で不同（等）沈下する恐れがある。
（O1）阪神の盛土よりも谷の両岸が急傾斜で切れ込んだ形状になっており、仙台に近い（似ている）。谷の両岸がすべるとその真ん中で盛土が盛り上がる動きをする。
は詰まってきているので動きにくいと考えられる。
は先端が部分的に崩れるだろう。
（T） の下の住人から液状化が起こらないかという心配をしているが。
（O1）元々の田の面上にどの程度の高さ盛土しているか、また、盛土の土の構成が不明であるため確かなことはいえないが、対策としてはセメントミルク等で砂の間隙を充填する方法がある。しかし費用が大であるので、家を建て替える時更地になった時に地盤改良や杭基礎工などの対策をすると安価にできる。
液状化は GL-10m 以内で起きることが多い。液状化対策としては、地下水を抜くか薬液注入等で間隙を埋めてしまう方法がある。神戸では池を埋めた宅地は殆ど被害を受けた。
（O2）人孔箇所の陥没について、調査方法は？
（O1 他）レーザー探査により地中の空洞調査をする方法がある。
過去にも陥没して修復した経緯があるとのことなので、道路管理者に相

談する方が良い。下水管に土砂が流出していることにより陥没しているのか、それより下の地盤の圧密や埋め戻し転圧不良による沈下なのかについては、前回修復したときの陥没深さが下水管より深かったかどうかで推測される。

(O1 他) の出水について、擁壁背面の水が擁壁を通過後上向きに噴出している。どのような排水構造になっているのか不明であるが安全性について管理者(市)に相談する方が良い。

水の出方が悪くなると擁壁に水圧がかかり危険であるので注視が必要だ。また、水が背面の土を流出させていれば背面が陥没することになるのでその点も注視が必要だ。

(4) 「山中比叡平学区自主防災会」の概要と活動状況・課題等の紹介

主として過日行った衣川台自主防災会との交流時のパワーポイントを基に説明を受けた。

【組織の概要】

- ・ 「山中比叡平学区自主防災会」は古くからある町山中町と1960年代後半に開発された比叡平1丁目、2丁目、3丁目の自治会からなる。
- ・ 各自治会に自主防災会があり学区自主防災会と役割分担している。
- ・ 「山中比叡平学区」の規模は1300世帯で人口3165名である。
- ・ 学区自主防災会は2005年結成、2009年始動した。

【課題】

- ・ 急傾斜地崩壊危険箇所や谷埋め盛土、盛土斜面が多いにもかかわらず地盤関係の専門家がない。
- ・ 地すべり、土石流、急傾斜地による住民の不安に対し、大津市は『比叡平地区は安全だ』という先入観があり、住民との感覚と乖離している。
- ・ 地区内の平日昼間人口が女性、老人などであり、発災時の対応が心配。
(保育園・幼稚園、小学校は地区内にあるが中学校からは地区外に通学しているため、中学生以上の通勤通学者、消防団員が不在)
- ・ 住民の高齢化(最近の5年間で平均年齢が3歳上った)
- ・ 4自治会内で取り組みに温度差がある。
- ・ 2009年度の地震調査研究推進本部の発表で、琵琶湖西岸断層帯による地震はあと数百年は起こらないだろうと発表された。また、花折断層帯中南部も今後30年以内に発生する確率は0~0.6%と発表され、活動に余裕を持って対応するように変更している。

【主な活動】

- ・ 役員会を2ヶ月に1回開催
- ・ 年1回学区総合防災訓練を実施している。
(消火栓を使った消火訓練、消防ポンプの稼働訓練、AED使用訓練、発電機、エンジンカッターチェーンソー、ジャッキなどの機械を使う訓練)
参加者は200名程度。
- ・ 防災見学会(3丁目)

(5) その他

緊急資機材・備品の標準備蓄項目・数量について神戸市の例を後日メールする。

(以上)